

II 編集後記II

東北大震災から五年目の春を迎えた。復興は道半ばである。戸山キャンパスでは八月から記念会堂が取り壊され、新記念会堂建設作業のためスロープ脇のメタセコイヤの枝は無残に切り払われた。再び枝葉を大きく茂らすのだろうか。

さて今号では日本史二本、アジア史一本、西洋史一本、考古学二本の論文を掲載した。時代もテーマも幅広いが、どの論文も力作である。若い会員諸氏には益々の投稿をお願いしたい。

平成二六年十月から一年間史学会の会長を務められた大内宏一先生が三月でご退職される。大内先生は四六年間早稲田大学に奉職し研究と後進の指導にあたられ、大きな足跡を早稲田に残した。本号に年譜と業績一覧を掲載し、先生に深く感謝申し上げます。

最後になるが、史学会運営や『史観』編集に尽力された日本史コース助教の矢野美沙子さん、アジア史コース助教の青木雅浩さん、同助手の小田章さん、西洋史コース助手の井出匠さん、考古学コース助手の大網信良さんと全コースの助教助手が今月で退職となる。史学会運営にとっては痛手である。これまでのご苦勞に感謝するとともに、五人の皆さんの新天地でのご活躍を祈りたい。

(長崎潤一)

執筆者紹介 (掲載順)

小川 宏和	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程
趙 国	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程
川手 翔生	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程
高橋 謙公	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程
近藤 二郎	早稲田大学文学学術院教授
高橋龍三郎	早稲田大学文学学術院教授
大網 信良	早稲田大学文学学術院助手
平原 信崇	早稲田大学會津八一記念博物館助手
山崎 太郎	早稲田大学大学院文学研究科 修士課程

史観

平成二十八年三月十八日印刷
平成二十八年三月二十五日発行

定価 一千五百円
第百七十四冊

編集者 新川 登亀男
印刷所 株式会社 白峰社
発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一
電話東京(三三〇三)四一四一番
振替〇〇一九〇―八一―四六二九